

新学術領域「粒子人間植物影響」
研究項目 A01「エアロゾルの生成と排出源の評価」
平成 21 年度第 1 回班会議メモ

2009 年 7 月 31 日 13:00～16:00

出席者：奥山，藤本，フェリー，廣川，猪俣，高橋，神谷，和田，東野，谷，奥村，山本
(敬称略；班順)

1. 最初に東野班長より，挨拶および領域の全体の説明，公募研究の採択結果について紹介があった．今回は採択結果の発表から間もないこともあり，公募研究の代表者からの発表はなし．

2. 研究計画の紹介

P01 多成分、非常態下における二次粒子生成・成長過程の解明

発表者：奥山先生，フェリー先生，藤本先生

使っている紫外光の波長，SO₂濃度がかなり高めで実験をしていることについての質疑応答があった．

P02 エアロゾル前駆体の実時間計測による二次有機エアロゾル生成過程の解明

発表者：廣川先生，高橋先生

有機エアロゾル生成の共同観測の対象として高橋先生より，イソプレンと CI による反応の紹介あり（自然起源と人為起源物質）

分析条件，検討の対象となる物質，想定しているメカニズムについての質疑応答があった．

P03 人為発生源におけるエアロゾルの生成と排出源同定

発表者：神谷先生

インパクターを煙道測定へ適用した場合の等速吸引の影響について質疑応答があった．

P04 社会経済活動のグローバル化を考慮したエアロゾル排出源と影響の評価

発表者：東野先生，奥村研究員

REA 法による BVOC フラックス計測、ソース・リセプター関係の予備検討結果、アジア産業連関表を用いた CO₂ 排出構造分析の結果について発表があり、S-R 関

係による影響評価について質疑があった。

3. 討論

有機粒子の野外共同観測について

京大，奥村氏よりサイトの紹介があった。

京大高橋先生が共同観測への参加を検討している。

セスキテルペンをターゲットにしている研究グループはあるのかどうかについての質問があった。

森林起源粒子を IC で分析しているが，イソプレンはオリゴマーを含むので LC を使うとよいのではないかと，とのコメントがあった。

最後に評価委員の笠原先生から講評があった。

研究期間の最後にどのように成果をまとめるのか，他班との連携を考慮に入れた研究を進めていくことが必要。また他班にとって必要とされている情報が濃度であるのか沈着量であるのかを把握しておくことも必要である。

植物起源の VOC (BVOC) だけでなく，人為起源の VOC についての検討が必要ではないか？

とのコメントがあり，2 番目の件に関して，東野班長より影響評価，将来予測，規制の対象は人為起源物質であるが，二次生成物質の生成を定量的に把握するためには BVOC も含めたトータル VOC の総量を精度よく押さえておくことが重要であるとの観点に立ち，本研究を進めているとの返答があった。

次回班会議は 2009 年 12 月 18 日に京都で開催の予定。

(文責：山本)